

特別豪雪地帯における地域保健活動と降雪への対応について
横手市の事例から

Coping with snowfall and community health activities in special heavy
snowfall areas

A case study of Yokote city

公益財団法人 地震予知総合研究振興会 東濃地震科学研究所

主任研究員 古本 尚樹

〒509-6132 岐阜県瑞浪市明世町山野内 1-63

TEL:0572-67-3105 FAX:0572-67-3108

E-Mail: furumoton53@mail.tries.jp

抄録

目的：特別豪雪地帯における自治体の保健活動を降雪への対応とともに調査することにより冬期間での課題、またその一方で、努力により効果を上げているサービスを明らかにする。

方法：秋田県横手市役所職員（除雪、防災、保健関係）に聞き取り調査を行った。

結果：高齢化の中、地域内での雪に関する要望や苦情に差がある。冬期間の救急車の移動にバックアップの車両を更につけて雪害での対応に備えることがある。保健師は冬期間でも関係機関と協力して「雪」による影響を最小限にして各種サービスを提供している。

結論：降雪量が多い中、また限られた自治体職員のマンパワーでありながら、冬期間を含め、関係機関と連携を密にして住民の健康・安全に寄与している。降雪による障害を克服していると言っても過言ではない。

キーワード：特別豪雪地帯、地域保健、除雪

(英文抄録)

Objective: By examining the public health activities of municipalities in special heavy snowfall areas along with their ways of coping with snowfall, this study aims to clarify the challenges faced in the winter period, and also the services whose efforts are proving effective.

Method: An interview survey was conducted with the staff of Yokote city hall (those responsible for snow removal, disaster prevention, and public health) in Akita Prefecture.

Results: With an ageing population, there are differences in the demands and complaints concerning snow within the community. During the winter period, backup vehicles are provided and follow the ambulances' movements in order to prepare for the responses to snow damage. Public health nurses in cooperation with related agencies provide a variety of services during the winter period so as to minimise the impact of 'snow'.

Conclusion: Amidst the large amount of snowfall, and with limited manpower, local government officials, closely cooperating with relevant organisations, are contributing to the health and safety of residents. It

is no exaggeration to say that they are overcoming the obstacles that are presented by snowfall.

Keywords: special heavy snowfall area, community health, snow removal

I. 緒言

我が国における雪害は、年によってはその犠牲者が 100 人を超える時もある¹⁾ほど、影響は少なくない。昨今、首都圏でも大雪により交通障害やけが人も発生するなど、雪に対する備えは全国的に必要な課題である。

我が国には豪雪地帯・特別豪雪地帯と称される地域があるが、雪に閉ざされることによる運動不足、凍結路面による転倒やそれを恐れることにより自宅への引きこもり、屋根の雪下ろしによる事故、除雪による関節疾患、除雪が十分でなく寒さのためにデイサービスを利用しないなど、多岐にわたる影響が示唆されている²⁾。

各種サービスへのアクセスを含め、雪に対する自治体の対応を考察して、雪害への対応における参考としたい。

II. 研究方法

2014 年 10 月 28 日午後 3 時から同 4 時、横手市役所で建設や危機管理、健康福祉担当部課職員 5 名 (以下、A (建設関係) ,B (建設関係) ,C (健康福祉関連) ,D (危機管理関係) E (健康福祉関連:保健師) と記す) に聞き取り調査を行った。主な質問内容は「冬期間における住民の生活を守る除雪に関して」「住民の安全や健康対策について」である。これら調査対象者の意見が横手市の意見を反映しているものではない。

※平成 25 年度横手市大雪対策について³⁾によれば、2013 年度にける累積降雪量は 1, 091 cm、人的被害は 42 名 (うち死亡 5 名、重症 23 名。雪下ろし中の屋根からの転落や機械に巻き込まれる等)、建物被害は 23 棟 (うち全壊 14 棟) である。

倫理的配慮について

かつて所属した阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターでは倫理委員会がない代わりに研究部内、研究部上司、また指導者である上級研究員より指導を受け、倫理的に十分配慮を行った。また調査対象自治体また関係者に対しても同様の配慮を行い、問題がないよう連絡をとりながら調査を遂行した。

III. 結果

著者は第三者の研究者として聞き取りを行った。逐語によるものが主である。下記結果内のアルファベットは調査対象者の発言を指している。下記のカテゴリー分けは著者が調査対象者の意見から本文に有効なものを抽出した後、大きな項目に各発言内容を分けて独自

に各タイトルを付したものである。

除雪に関して

- 1) A 除雪に関して住民からは、除雪後の玄関先への堆雪に対応してほしいというものが多い。
- 2) C 各家庭の屋根雪下ろしは民間の業者が基本対応するが、年々そのニーズが高まり、業者待ちが数週間になってしまうこともある。
- 3) E 街中だと隣の住居との間隔が狭いので、屋根の雪下ろしや自然と落ちてくる雪で近隣トラブルになっているケースもある。
- 4) A 除雪に関しては郊外の雪捨て場へ雪を運ぶと、一日で排雪回数が少なくなる。
- 5) A 除雪に関する苦情・要望で約千件近くある。高齢者は特に市の除雪後における間口前に残る雪を除雪するのが大変なので、それが市へ指摘されるような部分はある。E 近所の雪における残し方と比較して不公平感があるような指摘も少なくない。
- 6) B 近隣に空き家があると、その雪が住民のいる世帯に除雪の際に入ることもある。
- 7) B 町中心部では利用時間を設けて流雪溝を設置している。地域内で利用できる時間帯が異なる。
- 8) E 横手市の除雪はきれいに行われている。雪捨て場はかなりあるので堆雪はできる。A1 シーズンで屋根の雪おろしを行う家庭では6～7回必要と言っているところもある。
- 9) A 市の除雪は直営と委託による民間業者によるが、市直営のほうが丁寧という意見は一部にある。
- 10) E 除雪車のオペレーターも除雪の時期は睡眠時間が短く、血圧が高いという人もいて、疲労している。連続降雪時は疲労していると思う。B 知り合いのオペレーターは勤務時間が不規則である。

住民の健康対策

- 1) E 冬期間は高齢者宅への訪問では二名体制にして、大雪の場合でも対応できるようにしている。男性に協力してもらい、除雪して集会所で、健康相談することがある。高齢者単独世帯では、民生委員や福祉教育委員に協力を得て、巡回による戸別訪問を行っている。
- 2) D 降雪時期に、自宅前に救急車が行くにくい家には、気候に応じて消防車両を救援車両として向かわせる。
- 3) E いわゆるデイサービスで、ボードを用意して高齢者をそれに乗せて車両へ移動させる場合もある。
- 4) E 市の建設課と連携して、除雪で配慮しながら医師が高齢者宅へ訪問できるようにしたケースもある。
- 5) E 医師会との協力関係ができています。在宅医療を重視し、地域包括ケア体制の確立に向けて努力している。

- 6) E 検診体制が市の保健事業団と厚生連の 2 つがある。それぞれ保健師の対応は違う。
- 7) E 今後、認知症予防に努めることと、自殺予防対策が重点になるのではないかと思う。自殺率に関しては季節による差もある。
- 8) E 経済的な理由で横手に戻ってくる 40~50 歳代の男性が比較的多い。例えばアルコールへの依存など、困難事例が増えてきている。横手での自殺者で男性は 50 歳代が最も多い。

IV. 考察

結果内「除雪に関して」2) で指摘されているように、連続した降雪時は特にマンパワーが不足になっている。結果内「除雪に関して」1) で高齢者への平地での除雪で有料サービスも展開されているが、結果内「除雪に関して」8) が示すように除雪に関わる回数増加は、その経済的負担も少なくない。これは、結果として自力による除雪回数の増加とともに事故等による健康被害、ひいては生命を脅かしかねない事態になる可能性も高まることが多いと著者は考える。個々の住民が負担を軽減したい意向は、自治体に苦情や要望で転嫁している実態もうかがえる(結果内「除雪に関して」5))。また、雪に関する近隣住民同士のストレスになるケースもあり(結果内「除雪に関して」3)、こうした課題は住民におけるメンタル面で健康への影響もありうる。更に、除雪作業に従事するオペレーターの健康を危惧する意見もあった(結果内「除雪に関して」10))。除雪に対して地域社会全体での理解と負担軽減に向けた協調意識の高揚が必要ではないかと著者は考える。

大雪を想定して(結果内「住民の健康対策」2)3))、これまでの長い歴史で培われてきた自治体内や関係機関との連携(結果内「住民の健康対策」1)4)5))がうかがえた。冬期間、救急車の不測事態を想定した支援車両の随行は、特に生命への危険度が高い場合にはより効果が高いと思われる。今後(結果内「住民の健康対策」6)で示唆された、健康診断事業を統一し、情報の一元化することでは、データの管理はしやすいだろう。課題は現在複数ある健康診断体制を統合するのに必要な関係機関との調整ができるかではないか。(結果内「住民の健康対策」7)8))で認知症や自殺予防への取り組みがされている。秋田県の自殺率は全国的に高く、平成 7 年からの全国 1 位が連続 19 年となった⁴⁾。横手市では中高年の男性で自殺者が多いことが課題として挙げられているが、いわゆる「働き盛り」の階層において、原因の究明が必要と思われる。

V. 結論

地域の歴史の中で培ってきた協調関係が大きな役割を担っている。降雪に関する住民のストレスは少なくないが、自治体の様々な支援がされている。今後も高齢化による影響は危惧されるが、直面する課題に対してより一層関係機関等と連携できるかが重要となるだろう

謝辞

この度、お忙しい中、横手市職員の方に、聞き取り調査でお忙しい中ご協力いただきました。ここに心中よりお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

参考文献

- 1) 三隅良平：気象災害を科学する.ベレ出版,東京,2014,p174.
- 2) 北村久美子：積雪寒冷地における看護の課題と保健婦活動 道東・道北圏域を中心に.旭川医科大学研究フォーラム 2 巻 2 号,2001,p36
- 3) 横手市総務企画部危機管理課：平成 25 年度横手市大雪対策について,2014,pp.1-3.
- 4) 秋田県.秋田県における自殺の現状.
<http://pref.akita.lg.jp/www/contents/1139120509575/files/genjo2610.pdf>
(参照 2014-04-22)